令 和 6 年 度　自　己　評　価　表

愛媛県立今治工業高等学校
学校番号　17

教育方針	教育基本法の精神にのっとり、人格の完成を目指し、民主的国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、公共の福祉に貢献する人間性豊かで実践的な技術者を養成する。	重点目標	ものづくりから人づくりへ ― いい汗をかこう ― 足もとをしっかり見つめ、広い視野と深い思考で、今を生きよう １ 確かな学力の定着と専門的実践力の育成 ２ 基本的生活習慣の確立と自律心の育成 ３ 豊かな人間性・社会性の育成 ４ 望ましい勤労観や職業観の育成 ５ 安心・安全な学校づくりの推進

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
工業教育	えひめ未来マイスター育成事業の充実	インターンシップやデュアルシステム、マッチングフェアの充実と、えひめ未来マイスター育成事業を活用した地域産業界との更なる連携を図る。	A	インターンシップやマッチングフェア、デュアルシステムを積極的に活用し、地域の産業界・地元企業との連協・協働を通じて、地元に根差した工業教育の充実を図った。特に今年度は、日本青年会議所、今治市、今治市商工会議所、今治地域造船技術センター、今治電気工事協同組合、今治タオル工業組合、今治市管工事業協同組合との連携を充実させた。	地域の産業界・地元企業と連携・協働し、えひめ未来マイスター育成事業を通じて、地域の課題に「ものづくり」を解決手段として取り組むことのできる次代の地域産業を支える「ものづくり」人材の育成を図る。
	ものづくり教育の推進	各種コンテスト・ものづくり大会に積極的に参加し、外部支援団体・企業との連携を図り、生徒・教員のものづくりに関する技術・技能の向上に努める。ものづくり関係全国大会へ１部門以上の出場を目指す。	A	地元の熟練技術者の指導・協力により、技能・技術の伝承・継承を図ることができた。各種コンテスト・ものづくり大会では、溶接・電気工事・化学分析の分野で全国大会に出場することができた。中でも溶接・電気工事の分野では、全国大会で優秀な成績を収めることができた。	今年度に倣い、地元の熟練技術者に指導を仰ぎ、生徒・教員のものづくりに関する技術・技能の向上に努めることによって、工業教育に関する各種競技会・コンテストの全国大会へ２部門以上の出場を目指す。
		ものづくり企業を積極的に訪問し、匠の技教室の実施によって、生徒・教員のスキルアップを図るとともに、専門教育の更なる充実に繋げる。	A	地域の産業界・地元企業と連携・協働した匠の技教室や企業見学、インターンシップ、デュアルシステムを積極的に実施し、最新の技術や卓越した技能に触れることで、生徒・教員の技術・技能の深化による「ものづくり教育」の充実を図ることができた。	今年度に倣い、地域の産業界・地元企業と連携・協働した匠の技教室や企業見学、インターンシップ、デュアルシステムの充実を図る。マッチング推進アドバイザーの助言を仰ぎ、地域の産業界・地元企業に密着した専門教育の充実を図る。
	資格・検定取得の奨励	各種の検定試験等に積極的に挑戦させるために、授業や放課後の資格取得における指導体制の充実を図る。	C	各工業科の特色に応じた資格・検定試験への取組が実践され成果を上げた。新たに配管職種、普通旋盤、シーケンス制御に関する技能検定に挑戦できる環境整備を整えた。ジュニアマイスター顕彰ゴールド１名、シルバー２名の取得にとどまった。	今年度に倣い、各種資格・検定取得に取り組むマインドの醸成と、難関資格に合格できる環境整備に努め、ジュニアマイスター顕彰ゴールド取得者3名、シルバー取得者5名以上を目標に定め、資格・検定取得を推進したい。
学習指導	基礎的・基本的な学力の定着	到達度テスト（スタディサプリ）の結果をもとに、生徒の実態を把握し、基礎学力の定着と自主的な自己学習力の育成を図る。	B	基礎学力に不安のある生徒が一定数いる。学期明けの到達度テストに向けて、長期休業中の課題に取り組むことができる生徒は多い。一方で、基礎学力を定着させるための平時の家庭学習には大いに課題が残る結果であった。	スタディサプリの機能を用いて生徒の学習実態が明らかになってきた。次年度は、豊富なコンテンツを工業科でも活用しやすいように整理するとともに、到達度テストの結果に応じた個別最適な学習ができるよう、連動課題配信をさらに活用する。
	教科指導の充実	校内外の各種研修会に主体的に参加し、教員の実践的な指導力の向上を図る。	B	研究授業は計画通り実施され、有意義な研究会も開かれた。全ての研修を掲示板で周知した。学校訪問研修は工業高校の実施がなかったが、延べ20名の参加があった。	各教科の研究授業などを通して授業改善に関する情報交換、情報共有を図る。他校の授業研修にも積極的に参加できるように、スムーズな情報提供に努める。
		生徒による授業評価を実施し、「はい」の回答率が100%になるように、授業内容と指導方法の改善を図る。	B	これまで同様、全教科で全生徒を対象に実施した。データを整理し、指導方法の改善につなげる。（「はい」79%、「どちらかといえばはい」18%、合計97%）目標達成には至らなかったが、一定の成果は得られている。生徒自身の学習への取組を振り返る機会にもしており、改善を促す機会とした。	授業評価の結果から、教員個々に振り返り、自身の教科指導力の向上を目指す。研究授業や、学校訪問等の研修の機会が重要であるため、参加機会、参加人数が増えるよう呼びかける。
	図書室及び図書利用の促進	図書室利用の啓発に努め、読書会や集団読書の充実を図る。生徒一人当たり年間貸出冊数3冊以上 （A:3冊以上　B:2冊以上　C:1.5冊以上　D:1冊以上　E:1冊未満）	C	年間貸出冊数は1.7冊であった。来館者数（延べ人数）は昨年の1.3倍になっているが、毎日閲覧室で少しずつ読んでいく生徒が多く、貸し出し冊数は目標に届いていない。	図書委員が紹介した本については、生徒の反応があったので、委員会活動の中で配架している本の紹介をする。
特別活動	生徒会活動の充実	生徒会活動（運動会・文化祭・クラスマッチ等）への積極的な企画運営を目指す。また広報活動等、地域発信をする。	B	生徒会役員を中心に学校行事を実施することができた。また記録、広報、掲示等を行い主体的に運営に取り組むことができた。	企画、運営をさらに生徒会中心の活動にしていきたい。
	部活動の活性化	部活動加入率90%以上（A：70%以上　B：69～60%　C：59～50%　D：49～40%　E：40 %未満）とし、県総体110名以上、四国総体3競技以上を目指す。	A	部活動加入率は97%以上、体育部では県総体123名、四国5種目、全国総体4種目が出場した。文化、生産部では各種全国大会に出場した。部活動全体で、全国1位を含む6名の全国入賞を果たした。	部活動における環境整備等、整えていきたい。
	ボランティア活動の推進	ボランティア、奉仕的活動への自主的・積極的な参加を促し、奉仕の心の育成を図る。	A	せとうちみなとマルシェ、福祉協議会のボランティア、今工祭での募金活動等、積極的に参加し、大いに取り組むことができた。	清掃活動・環境整備もボランティア精神を育む一環として、今後取り組ませたい。
生徒指導	問題行動の防止	生徒理解に努め、問題行動を未然に防止する。特別指導生徒数5人以内（A：5人以内　B:6～8人　C:9～11人　D：12～14人　E：15人以上）	E	特別指導件数17件（R5年度33件。R5年度は、今治市内全体でもR4年度比較で3倍の問題行動が発生。） 本年度は、問題行動も再指導率（12%）も減少傾向にある。ただし、今後も注意深く生徒を観察する必要がある。	暴力行為、SNSに関するトラブルを未然防止したい。警察署に依頼をして非行防止教室を実施する。また、保護者に対して、理解や協力、危機管理意識を持ってもらうように情報発信したい。
	安全教育の推進	交通安全及び「命を守る」意識の高揚を図る。通学時の事故件数5件以内（A:5件以内　B:10件以内　C:15件以内　D：20件以内　E：21件以上）	B	通学時の事故件数は10件（令和5年度7件）。病院搬送された大きな事故はなし。	事故は登校時に発生している。時間に余裕を持ち、安全通学を徹底できるように呼び掛け、事故防止に繋げたい。また、お互いゆずり合いができないので、事故に繋がるケースも多い。
	基本的生活習慣の確立	生徒の規範意識の高揚と基本的生活習慣の確立を図る。頭髪服装検査、合格率90%以上（A:90%以上　B：80～89%　C：70～79%　D：60～69%　E：59%以下）	C	頭髪服装検査、合格率70%（令和5年度73%）。例年並みの成果であった。	身だしなみに対しては大きな乱れはない。遅刻者数が一日平均1.0人（コロナ禍前0.5人程度、令和5年度0.9人）。学校活動の意欲向上を図りたい。
教育相談	充実した学校生活の支援	ホームルーム担任や養護教諭、スクールライフアドバイザー、専門機関との連携を密にし生徒の悩みの克服を支援する。	A	担任・養護教諭・SLAとの連携を密にして、支援を要する生徒に関する情報共有を図った。支援を要する生徒に対しては、SLAによるカウンセリングを実施するなど迅速に対応できた。カウンセリングの件数も飛躍的に増加した。	定期的にカウンセリングを必要とする生徒も存在するため、カウンセリング室の環境整備に取り組んでいきたい。また、SLAやSSWの利用を担任等に啓発していきたい。
		特別な配慮を要する生徒の実態把握に努め、学校生活を支援する。いじめ対策委員会の積極的活用を目指す。	B	担任との情報交換やアンケート等を実施して、特別な配慮を要する生徒の実態把握に努めた。また、いじめ問題についてはいじめ対策委員会を開き迅速に対応した。	いじめ対策委員会の開催が多くなり、委員の先生の負担が大きいと感じている。委員会の効率的な運用を考えていきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった　B：かなりの成果があった　C：一応の成果があった　D：あまり成果がなかった　E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
人権・同和教育	現職教育の充実	生徒の進路実現に向け、進路保障のための適切な指導を行い、部落差別の解消における教師の果たすべき役割の自覚を深め、すべての教育活動を通じて人権・同和教育を推進する集団作りを目指す。	C	ホームルーム活動前に学年会を行い、資料や効果的な教材を提示したり指導案について担任と話し合ったりする中で、同和問題に対する深い理解へとつなげることができた。また職員対象の研修会を実施し、教員として高い人権意識と人権・同和教育への使命感を持って教育活動をすることの意義を確かめることができた。	部落差別の解消という目標を常に念頭に置き、生徒のあるべき姿を想像しながら、より主体的で実践的な展開となるよう効果的なホームルーム活動に導きたい。そのためにも教員の人権感覚を磨き、知識の更新に役立つ研修内容を検討したい。
	望ましい集団活動の推進	人権委員自らが、確かな知識に裏付けられた上での考え方や態度を培い、人権委員会で学んだことを生徒全体にフィードバックする。「部落差別の解消に関する法律」が施行された意義を理解できた生徒を100パーセントにする。	B	人権委員会での活動（学習会・フィールドワーク・講演会後の座談会）を通して学習したことを『人権だより』で情報発信したり、人権集会で一つの人権課題を取り上げ、主体的に問題提起をすることができた。また、様々な学習の機会を捉えて保護者との意見交換も行い、学習を深めることができた。	小さな活動を積み重ねて、生徒が自分事として部落差別の解消に取り組むことのできる集団作りを目指していきたい。
進路指導	進路意識の高揚	他課や外部との交流を深め、生徒の勤労観や職業観を育成する。「キャリア・パスポート」、進路希望調査、進路相談等を通して、より具体的に進路に対する意識を高めさせる。	B	意識の高揚をはかるために、具体的な進路希望調査を2年生の3学期に1回、3年生の1学期に2回実施した。生徒の進路希望を把握するだけでなく、担任や科長に適時フィードバックできた。進路指導課としての進路相談も積極的に取り組み、ホームルーム活動における「キャリア・パスポート」の活用も推進した。	進路に関して家庭でしっかりと話をさせることを今まで以上に推進したい。より早い時期、例えば1年生から、自分の適性を知り、職業観を育成して目標を設定させることが進路実現につながるものと考える。各場面における「キャリア・パスポート」の活用についても効果的な活用方法を引き続き検討したい。
	就職・進学指導の充実	生徒一人一人の適性や能力の把握に努め、キャリア教育の充実を図る。学校紹介による就職内定率100%、進路希望達成率100%（A:100%　B:99～95%　C:94～90%　D:89～85%　E:85%未満）を目指す。	B	就職希望者全員が年内に内定を得ることができた。就職内定率100%である。進学については1名が未決定である。出願はしているが、2月が試験で結果は3月で卒業後となる。現時点の進路希望内定率は99.2%であるが、ほぼ100%とみてよい。	SNSを介してのコミュニケーション能力ではなく、就職してからの人としてのコミュニケーション能力が重要視されることから、社会人としてのマナー、特に挨拶などについては、繰り返して指導できたらと考えている。今治地区には屈指の地域産業が数多くあるので、工場見学などでまず産業や職業を知ることから推進していきたい。
情報管理	校務のデジタル化と教育のデジタル化	教育業務の効率化に資する校務のデジタル化を推進する。 教育のデジタル化を推進して、個別最適化教育を促進する。	B	授業支援システムは活用され、新たにEILS－PBTが普及し始めた。今年度からスタディサプリを導入して活用する機会が増えた。 SNSなどのトラブルがいくつかあり、情報モラルを身につけることは、幼少期から積み残した大きな課題との認識が必要だ。	IDとパスワードの自己管理の意識を高める。工業の視点からタブレットなど公共物の管理を理解させる。道徳的発達段階を踏まえて、明確な目標と戦略的な対応を用意する。初等教育の基本に立ち返り、教科横断的な学び直しとコンテンツの提示にICTを活用することが必要だと考える。
	セキュリティ及びデータ管理の徹底	データ管理のシステムを整え、データの流れを見直し、安全に管理する。	B	情報セキュリティ監査より、重要性分類の提示について指摘を受けた。また、NASのデータ保存期間についても見直しをする必要がある。サーバデータのバックアップをしていない。	スキャナ読み取りデータをUSBを使わず管理する方法に切り替える。NASのデータ管理を見直す。利用方法について規程集に明記する。サーバデータの自動バックアップを整備する。
保健厚生	健康管理能力の育成	保健委員会活動を通して、心身の健康管理に対する学びを深め、自己の健康管理ができる生徒の育成を目指す。	B	睡眠習慣に関するアンケート調査と知識理解調査を、年3回行い実態把握に努めた。保健委員が睡眠ダイアリーを配布し、睡眠習慣の振り返りを促した。	令和4年度から睡眠をテーマとしている。3年間で少しずつ改善が見られるものの、まだ改善が必要なため、引き続き本テーマに取り組みたい。
	防災意識の高揚	防災学習、避難訓練等の内容を見直し、防災意識の高揚に努めるとともに、施設面でも安全点検を徹底して、危機管理を行う。	B	避難訓練、シェイクアウト訓練などを計画通り実施することができた。また、実際の災害状況に学び、災害に備える知識を得ることができた。	通常の非常変災避難訓練の内容を検証し、より実践的なものにするなど、教職員・生徒の危機管理意識を高めるとともに、施設安全点検等を的確に行う。
渉外広報	PTA活動の活性化	生徒数の減少とともに保護者の数も減っているが、学校行事やPTA活動を現在の活気あるものを今後も維持していく。	B	PTA総会、今工祭バザー、理事会・役員会以外に球技大会や研修旅行などのPTA行事を実施することができた。特にPTA総会を祝日に実施したことで参加者が約2倍に増加した。	様々なPTA活動をPTA会長を中心として実施できたが、今後さらに活性化させていきたい。
	きめ細かな情報提供	学校新聞や毎月のPTA通信の内容が形骸化しないよう、新しいものを導入する。	B	PTA通信(月１回)・今工新聞(年２回)は、生徒の活動、部活動での活躍を取り入れて、発行することができた。PTA通信はスタディサプリでも配信し、2回目の今工新聞では写真をカラー印刷にしより分かりやすいものにした。	毎月のPTA通信はホームページに掲載しつつ、紙媒体での配布も継続し、スタディサプリでの保護者への配信も含めて様々な形での情報提供を継続していきたい。
		体験入学や出前講座、ものづくり教室など、さまざまな活動を通して本校の魅力を外部に発信し、入学志願者数増加へつなげる。	A	体験入学、出前講座、ものづくり教室に加え、中学生に向けたオープンスクールを開催し、本校の魅力をアピールして入学志願者増加に努めた。 ホームページや公式Instagramのコンテンツを充実させ、魅力発信に努めた。テレビ、新聞等のメディアに取材依頼を打診した。	ホームページや公式YoutubeなどSNSを通じて本校生の活躍、本校の魅力を外部に発信したい。各種メディアに計画的に取材依頼を実施して、本校の魅力を広く報道してもらえるよう工夫したい。
学校事務	人事管理の適正化	人事、給与、手当等の適正な支給と認定を行う。	A	正確で迅速な事務処理ができた。	引き続きダブルチェックを行い、正確な事務処理に努める。
		心身の健康管理と事故防止を図る。	C	ストレスチェック集団分析結果は概ね良好であった。衛生委員会等の機会を通じて教職員健康管理医と連携し、教職員の健康の保持と増進に関する情報の収集に努めた。	風通しのよい職場づくりに、引き続き全校体制で取り組む。教職員の心身の健康を第一とし、働き方改革と業務改善を積極的に推進する。
		危機管理意識の高揚に努める。	C	不祥事や公務災害はなく、教職員が危機管理意識を高く持って職務に取り組んでいる。職員会議や職員朝礼で管理職による研修の実施と情報提供に努めた。	会計の不適正処理や諸手当の不適正受給が起こらないよう、また不祥事や公務災害等が起こらないよう、研修等を通じた働きかけを継続していきたい。
	経理事務の厳正化と効果的な執行	各会計の計画的な予算執行と迅速かつ適正な事務処理を行う。	B	県費及び私費会計ともに、教職員からの要望を聴取し、計画的かつ適正な執行に努めた。	今後も計画的かつ適正な予算執行に努める。
		経費節減に努める。	B	教職員へ節電や経費節減に努めるよう周知した。	過不足がないよう適切な予算管理に努めるとともに、費用対効果を考えながら無駄をなくす。
	文書管理の適正化	迅速な収受と適切な保存を行う。	A	校務系メッセージ及び掲示板を有効に活用し、迅速かつ適切な処理に努めた。	今後も引続き迅速かつ適切な処理に努める。
		個人情報の厳正な管理を行う。	A	管理規程に則り、教職員及び生徒情報について適切な管理に努めた。	今後も引続き適切に管理を行う。
	施設・備品の適切管理	学校内外の潜在危険個所の除去と事故防止を図る。	B	日常から危険個所の把握に努め対応しているが、予算上の問題から当面修理不能と判断した屋外便所は使用禁止とした。	今後も管理厚生課より提出される安全点検や教職員からの情報収集により危険個所等の把握に努める。
		生徒の学習・生活の場としての教育環境の整備と充実に努める。	B	校舎の老朽化に伴い給水管等の腐食による漏水箇所の把握に努めた。	予算上の制約があるが、よりよい教育環境の整備に努める。
教職員	ICTの活用による業務の負担軽減	グループウエアを有効活用することにより、文書処理や会議等の時間の短縮を図り、教育業務の効率化を図る。	C	グループウェアの活用による情報共有の効率化の効果が現れ始めている。職員会議や職員朝礼などは時間短縮につながっている。	ICT機器の効果的な活用方法をさらに研究し、教職員の業務の負担軽減に努めていきたい。
	効率的・効果的な活動の推進	計画的な活動によって休養日を確保したり、環境条件に配慮した活動によって安全を確保したりして、担当者の心身の負担を軽減する。また、教職員への個別の声掛けも実施する。	C	教職員への定期的な声掛け等は行っているものの、計画的な休養日の確保には至っていない。	休養日確保の意義や大切さを周知することで、ワークライフバランスを実現し、効果的な活動の推進を図る。毎月在校時間が80時間を超える教職員もいるので、個々の事情に寄り添いながら、軽減を図りたい。

※ 評価は5段階（A:十分な成果があった　B:かなりの成果があった　C:一応の成果があった　D:あまり成果がなかった　E:成果がなかった）とする。